

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690168095	
法人名	医療法人 養生園	
事業所名	認知症グループホーム 樹庵	
所在地	徳島県徳島市城東町2丁目7番34号	
自己評価作成日	令和4年10月13日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和4年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・個別機能訓練プログラムを立て、日々実施しています。また、生活機能維持のため、入居者様の元の生活で行っていた家事活動を家族等から情報収集し、無理のない活動の提供を心がけています。例えば専業主婦であれば、食器洗い/拭き、洗濯もの干し/たたみなど。男性で家事活動の経験が少ない方は、テーブル拭き、廊下のモップかけ、窓ふきなど。入居者様の残存機能を最大限に活かし、認知症進行抑制に努めています。  
 ・医師・看護師の常駐はありませんが、訪問診療体制を充実させています。訪問診療、訪問歯科、訪問看護、管理栄養士による指導を定期的に受けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、近隣に県立高等学校や商店がある、幹線道路沿いに位置している。敷地内には、同一法人が運営する医療機関が併設し、医療連携体制を整備し、利用者や家族等の安心・安全に繋がっている。法人理念をもとに作成した、事業所独自の理念である“入居者様の尊厳を守り、愛情をもって笑顔を引き出します。”を掲げている。理念は、職員の名札の裏に記載するなどして共有化を図り、日ごろの支援の実践に取り組んでいる。医療面では、月1回、協力医療機関からの往診や、週1回の訪問看護、管理栄養士による定期的な指導など、利用者一人ひとりの心身状況にあわせた多職種による医療連携体制を整備している。また、利用者の介護計画を作成する際に、訪問看護師やリハビリ専門職の意見等を取り入れるなど、積極的に連携を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングにケア理念を掲示し職員が意識し理念に沿ったケアができるよう心掛けている。また法人理念は名札の裏に記載されておりいつでも確認でき実践できるよう努めている。	事業所では、開設当初から、事業所独自の理念を掲げている。事業所内に理念を掲示したり、名札の裏に記載したりして、職員間での共有化を図っている。また、新人職員研修の際に、理念について周知するなど、日ごろの実践につながるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍のため、中止している。	事業所では、行事等の開催により、地域住民やボランティアの来訪を受けるなど、地域との交流を図っている。感染症(コロナ等)の流行下においては、民生委員の来訪を受けるなど、安全面に配慮しつつ、交流の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、施設周辺の散歩は継続しているが、自動車での外出や外部との接触を制限した状態が続いている。地域との関りが希薄になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	連携している医療機関の職員から意見をいただき、サービス向上に活かしている。地域の方々との交流は不十分。	事業所では、感染症の流行に伴い、書面による運営推進会議を実施している。事業所の状況や行事等について、写真と文書により報告しているが、各委員から意見を得て、共有化を図るまでには至っていない。	今後は、各委員に書面を送付する際、事業所の取り組みに対して意見を得ることができるよう工夫が望まれる。また、聞き取った意見を、職員や他の委員に共有し、サービスの質の向上に活かす取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際には担当者様へ資料提出や関係書類の提出等で関係構築に努めている。	管理者は、毎月、市の担当窓口を訪問し、事業所や利用者等の現況について報告している。また、市の担当者から、支援に関する研修会について、メールで案内を受けるなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入口にオートロックの扉があるため、日に1時間程度開錠するようにしています。	事業所では、定期的に、身体拘束に関する研修会を開催し、拘束の内容や弊害について、職員間での周知・理解を図っている。玄関は、毎日、利用者や職員等の状況にあわせて開錠時間を設けているが、事業所の立地等により、原則、施錠している。	今後も、玄関の施錠等について、職員間での話し合いを継続することが望まれる。利用者が抑圧感・閉塞感等を感じることはないよう、自由な暮らしの支援に向けて、全職員で協議・検討し、創意工夫に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設での虐待ニュースを参考に、なぜこのような行動をとってしまったか等を話し合う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	令和4年10月20日に、管理者が「令和4年度徳島県権利擁護推進員養成研修」を受け、知識を深める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書の内容を一緒に確認しながら疑問等に答え丁寧な対応を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	こまめに電話連絡し、些細な事柄でも情報共有できるよう努めています。ご家族から不安が感じられれば話し合うようにしている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの意見や要望等を聞き取っている。家族等については、利用者の様子を電話で報告した際に、意見等を聞き取っている。聞き取った意見等について、職員間で協議・検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は個々に半期目標設定している。その目標の達成に向け、管理者と話し合いを持ち、実践していく。目標設定・振り返りの時に個別面談を行い、運営に対する意見も汲み取っていく。	管理者は、年2回、職員面接を行い、一人ひとりの業務に関する目標や課題、意見、提案等を聞く機会を設けている。毎日の申し送りやカンファレンスなどの際にも、意見等を聞いている。出された意見等について、代表者と共有化を図り、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	立案した目標に向かって、具体的に関わられるようアドバイスしたり、業務調整を行っている。処遇改善加算交付金を毎月支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	連携機関の精神科作業療法士から、認知症のリハビリテーションについて資料をいただき、学習材料としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接施設との勉強会等交流する事により意見交換でき、サービスの質の向上ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談の機会を作り、本人様、家族様からヒアリングをし、できるだけスムーズに入居できるよう努力している。入居後も安心して生活できるよう環境、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少しでも不安要素があれば話しあい、信頼関係が構築できるよう入居前から取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には感染対策をしつつ、見学に来ていただき、入居希望の経緯、現在の生活状況等をお聞きし対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の強みを把握し発揮できるような環境を整え、職員と共に向上していき職員は常に感謝の気持ちを伝える事を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様それぞれの関係性を理解しながらそれぞれに見合った関係性を保ち職員と共に本人様を支えていく関係作りができるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方の来訪を歓迎している。また、家族との外出や外泊もできるよう支援している。しかし、今年度はコロナ感染対策実施のため、外泊はできていない。	事業所では、利用者の馴染みの関係性の継続に向けて支援している。感染症の流行下においても、状況に応じて、居室で短時間の面会ができるようにするなど、関係が途切れないよう継続に努めている。また、電話の取次支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握しながら席順を考えたり、職員が間に入り関係性を良好に保てるよう努力している。またレクリエーションを通じて、関わり合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でも相談、支援に応じる事をお話させていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が入居者様一人ひとりの希望、意向に関心を持ちながらサービスを提供している。また意思決定できるよう傾聴し対応している。意思決定困難な方はその方の表情や様子を伺いながら把握するよう努めている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの思いや意向等の把握に努めている。意思の表出が困難な方には、仕草や表情などから、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの情報提供や家族様からの情報などを職員間で共有し、個別ケアができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの介護記録を日々記入し共有している。入居者様のできる事を大切にしながらか支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の性格的な特徴の把握に努め、対応を個々に検討している。	事業所では、利用者や家族、訪問看護師、作業療法士等の意見を踏まえた介護計画書を作成している。定期的に、モニタリングを行いつつ、随時の見直しも行うことで、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録として行ったことを記載している。また、その反応や顔色の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様から要望、意見等伺い支援ができるよう努力している。また職員全員がカンファレンス時だけでなく日頃から情報交換し、新しいアイデアがあれば次のサービスに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は不十分。以前は年に数回慰問ボランティアをお願いし交流をしていたがコロナ禍の為中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様それぞれの主治医がおり、定期的な受診支援をしている。また他の科に受診依頼がある場合に家族様に連絡、相談しながら、速やかに受診できるよう連携を図っている。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。週1回の訪問看護や月1回の訪問歯科があるなど、医療連携体制を整備している。また、専門医を受診する際は、家族等の協力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接医療機関から看護師にきてもらっている。月に1回カンファレンスを看護師と開催し、問題の把握や改善に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族様や入院先の医療機関と情報交換を行い、本人様の安定を考慮しながら退院後も安心して暮らせるよう支援している。また主治医には情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設医療機関の主治医や家族様と密に情報を共有しながら、入居者様の変化等報告している。職員間でも変化を見落とさないよう様子を観察し連携を図っている。	事業所では、随時、利用者の心身状況の変化に応じて、本人や家族等の意向を確認している。同一法人が運営する併設の医療機関と連携を図り、利用者や家族等の意向、支援の方向性などを共有するなど、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、併設の医療機関と連絡がとれるよう整備している。また職員は定期的に行う応急処置の研修に参加できるよう計画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、非常時に備えてマニュアルを作成している。法人内の併設医療機関の避難訓練にも参加し消火器の扱い方等を確認している。	年2回、併設の医療機関と連携を図り、日中・夜間を想定した消防訓練を実施している。備蓄品は水害等を想定し、2階に保管している。また、非常時におけるマニュアルも作成し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスや勉強会等で入居者様に対する言葉掛けや対応について話し合い、職員間でも意識し注意しあえるように努めている。	事業所では、年1回、個人情報保護やプライバシーなどに関する研修会を開催し、職員に周知・理解を図っている。職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりを尊重した支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定できるような声かけを心掛けている。表情や仕草を観察しながら支持ではなく、会話の中で促しができるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴のタイミングは本人の希望に添えていないこともあるが、緊急時に備える必要性等説明し納得して生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際には本人様に着替えを選んでいただいたり、美容師に定期的に訪問していただき本人様に髪型をどうしたいか一緒に考えながらカットしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員が行っている。食器拭きや机拭き、下膳は入居者様に手伝ってもらっている。	食事は、同一法人が運営する併設の医療機関の管理栄養士が、献立や配食等を一括管理している。事業所では、利用者一人ひとりの状況にあわせて、食事の形状を変更している。また、利用者と一緒におやつを作るなど、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の計算を行っている。不足している水分やカロリーは補食で補っている。カンファレンスにて看護師に指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月歯科の訪問診療を受けている。その情報を元に一人ひとりの口腔状態を把握し毎食後歯磨きの声掛け/見守りを行っている。ブラッシング介助や義歯の着脱にも気を付けて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様全員がトイレでの排泄を行っている。必要に応じ、様子観察しながら声掛けや誘導するよう努めており、オムツはしないようにしている。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンにあわせた排泄支援に取り組んでいる。夜間も、心身状況に応じたトイレ誘導を行うなど、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の状態確認を行い、下剤の調整を行っている。便秘がちな方には水分や便秘の体操を行い解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の入浴タイミングを確認し、できるだけ意向に添えるようにしている。夜間の入浴希望には添えていない。	事業所では、週3回は入浴することができるよう支援している。入浴拒否がある場合は、声かけのタイミングや職員を変えるなど、一人ひとりの意向にあわせた支援に取り組んでいる。希望に合わせて、入浴後に保湿クリームを塗るなど、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間にテレビをみる方もいるので、できる限り音量の調整や聴力を把握し居室を選定している。室温等も個別に調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が確認できるよう各々のファイルに薬情を綴じている。処方内容が変更の際には医療連携ファイルに記載し、申し送りでも伝え周知するようにしている。配薬の際には誤薬がないよう職員間と本人様で名前の記載を確認しあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様や家族様から入居前の生活様式を聞き取り、個々で興味がある活動を提供している。また週に1度とくし丸を活用し個々の好みに沿ったおやつや必要品を選んでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望がある方は安全な範囲で職員が同行し散歩やゴミ出しと一緒に出掛けている。地域との連携はできていない。	事業所では、気候のよい日には散歩に出かけるなど、日常的な外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においては、敷地内を散歩したり、家庭菜園を楽しんだりして、外に出る機会を設けている。また、感染状況に応じて、家族等の協力を得つつ、可能な範囲での外出支援に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自事業所では本人様のお金の所持は行っていない。一人ひとり預り金を家族様合意のもと事業所で管理し月単位で報告書をまとめて家族様にお渡ししている。本人様の希望を事前に伺っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は自由に書いてもらっている。電話は携帯電話の持ち込み自由。また、電話は希望時にしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはレクリエーションで作った壁画を飾り季節を感じられるよう努めている。室温は入居者様の意見を聞いたり、温度計で確認しながら調節するよう心掛けている。新聞や雑誌も配置している。	事業所のリビングには、毎月、季節を感じることで利用できる利用者の個人作品や皆と一緒に作成した共同作品が展示され艶やかである。また、事業所内の各所に温度計を設置しており、気温を中心に事業所内の環境面に十分配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室の他にリビングやサンルームがあり、他者が干渉しすぎないような居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り自宅の環境を再現できるように、自身のマグカップやタンス、写真を持ち込んでもらい、安心して過ごせるように支援している。	居室には、家具やテレビ、趣味の物など、利用者にとって馴染みのある物を持ち込んでもらっている。利用者の動線にあわせて、椅子やタンスの配置等を配慮している。週1回、居室の清掃を行い、居心地よく過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には本人の好きな目印を置く事で部屋間違いを防いでいる。トイレの間違いいには活字や写真でトイレの目印がわかるように支援している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングにケア理念を掲示し職員が意識し理念に沿ったケアができるよう心掛けている。また法人理念は名札の裏に記載されておりいつでも確認でき実践できるよう努めている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍のため、中止している。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、施設周辺の散歩は継続しているが、自動車での外出や外部との接触を制限した状態が続いている。地域との関りが希薄になっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	連携している医療機関の職員から意見をいただき、サービス向上に活かしている。地域の方々との交流は不十分。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際には担当者様へ資料提出や関係書類の提出等で関係構築に努めている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入口にオートロックの扉があるため、日に1時間程度開錠するようにしています。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設での虐待ニュースを参考に、なぜこのような行動をとってしまったか等を話し合う機会を設けている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F	1F	1F
			実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	令和4年10月20日に、管理者が「令和4年度徳島県権利擁護推進員養成研修」を受け、知識を深める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書の内容と一緒に確認しながら疑問等に答え丁寧な対応を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	こまめに電話連絡し、些細な事柄でも情報共有できるよう努めています。ご家族から不安が感じられれば話し合うようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は個々に半期目標設定している。その目標の達成に向け、管理者と話し合いを持ち、実践していく。目標設定・振り返りの時に個別面談を行い、運営に対する意見も汲み取っていく。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	立案した目標に向かって、具体的に関わられるようアドバイスしたり、業務調整を行っている。処遇改善加算交付金を毎月支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	連携機関の精神科作業療法士から、認知症のリハビリテーションについて資料をいただき、学習材料としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接施設との勉強会等交流する事により意見交換でき、サービスの質の向上ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	1F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談の機会を作り、本人様、家族様からヒアリングをし、できるだけスムーズに入居できるよう努力している。入居後も安心し生活できるよう環境、関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少しでも不安要素があれば話しあい、信頼関係が構築できるよう入居前から取り組んでいる。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には感染対策をしつつ、見学に来ていただき、入居希望の経緯、現在の生活状況等をお聞きし対応するようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の強みを把握し発揮できるような環境を整え、職員と共に向上していき職員は常に感謝の気持ちを伝える事を心掛けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様それぞれの関係性を理解しながらそれぞれに見合った関係性を保ち職員と共に本人様を支えていく関係作りができるようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方の来訪を歓迎している。また、家族との外出や外泊もできるよう支援している。しかし、今年度はコロナ感染対策実施のため、外泊はできていない。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握しながら席順を考えたり、職員が間に入り関係性を良好に保てるよう努力している。またレクリエーションを通じて、関わり合えるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F	1F	1F
			実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でも相談、支援に応じる事をお話させていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が入居者様一人ひとりの希望、意向に関心を持ちながらサービスを提供している。また意思決定できるよう傾聴し対応している。意思決定困難な方はその方の表情や様子を伺いながら把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの情報提供や家族様からの情報などを職員間で共有し、個別ケアができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの介護記録を日々記入し共有している。入居者様のできる事を大切にしながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の性格的な特徴の把握に努め、対応を個々で検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録として行ったことを記載している。また、その反応や顔色の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様から要望、意見等伺い支援ができるよう努力している。また職員全員がカンファレンス時だけでなく日頃から情報交換し、新しいアイデアがあれば次のサービスに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は不十分。以前は年に数回慰問ボランティアをお願いし交流をしていたがコロナ禍の為中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様それぞれの主治医がおり、定期的に受診支援をしている。また他の科に受診依頼がある場合に家族様に連絡、相談しながら、速やかに受診できるよう連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接医療機関から看護師にきてもらっている。月に1回カンファレンスを看護師と開催し、問題の把握や改善に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族様や入院先の医療機関と情報交換を行い、本人様の安定を考慮しながら退院後も安心して暮らせるよう支援している。また主治医には情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設医療機関の主治医や家族様と密に情報を共有しながら、入居者様の変化等報告している。職員間でも変化を見落とさないよう様子を観察し連携を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、併設の医療機関と連絡がとれるよう整備している。また職員は定期的に行う応急処置の研修に参加できるよう計画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、非常時に備えてマニュアルを作成している。法人内の併設医療機関の避難訓練にも参加し消火器の扱い方等を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	1F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスや勉強会等で入居者様に対する言葉掛けや対応について話し合い、職員間でも意識し注意しあえるように努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定できるような声かけを心掛けている。表情や仕草を観察しながら支持ではなく、会話の中で促しができるよう心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴のタイミングは本人の希望に添えていないこともあるが、緊急時に備える必要性等説明し納得して生活して頂いている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際には本人様に着替えを選んでいただいたり、美容師に定期的に訪問していただき本人様に髪型をどうしたいか一緒に考えながらカットしていただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員が行っている。食器拭きや机拭き、下膳は入居者様に手伝ってもらっている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の計算を行っている。不足している水分やカロリーは補食で補っている。カンファレンスにて看護師に指示を仰いでいる。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月歯科の訪問診療を受けている。その情報を元に一人ひとりの口腔状態を把握し毎食後歯磨きの声掛け/見守りを行っている。ブラッシング介助や義歯の着脱にも気を付けて支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F		
			実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様全員がトイレでの排泄を行っている。必要に応じ、様子観察しながら声掛けや誘導するよう努めており、オムツはしないようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の状態確認を行い、下剤の調整を行っている。便秘がちな方には水分や便秘の体操を行い解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の入浴タイミングを確認し、できるだけ意向に添えるようにしている。夜間の入浴希望には添えていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間にテレビをみる方もいるので、できる限り音量の調整や聴力を把握し居室を選定している。室温等も個別に調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が確認できるよう各々のファイルに薬情を綴っている。処方内容が変更の際には医療連携ファイルに記載し、申し送りでも伝え周知するようにしている。配薬の際には誤薬がないよう職員間と本人様で名前の記載を確認しあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様や家族様から入居前の生活様式を聞き取り、個々で興味がある活動を提供している。また週に1度とくし丸を活用し個々の好みに沿ったおやつや必要品を選んでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望がある方は安全な範囲で職員が同行し散歩やゴミ出しと一緒に出掛けている。地域との連携はできていない。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自事業所では本人様のお金の所持は行っていない。一人ひとり預り金を家族様合意のもと事業所で管理し月単位で報告書をまとめて家族様にお渡ししている。本人様の希望を事前に伺っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は自由に書いてもらっている。電話は携帯電話の持ち込み自由。また、電話は希望時にしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはレクリエーションで作った壁画を飾り季節を感じられるよう努めている。室温は入居者様の意見を聞いたり、温度計で確認しながら調節するよう心掛けている。新聞や雑誌も配置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室の他にリビングやサンルームがあり、他者が干渉しすぎないような居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り自宅の環境を再現できるように、自身のマグカップやタンク、写真を持ち込んでもらい、安心して過ごせるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には本人の好きな目印を置く事で部屋間違いを防いでいる。トイレの間違いには活字や写真でトイレの目印がわかるように支援している。		